

## いつかおじいちゃんのように

山口小学校 六年 佐々木 茜 莉

昨年の十二月、私は大きな舞台上にいた。山口太鼓四十周年。今まで見たことのないくらいのお客さんに囲まれ、ものすごい緊張の中、太鼓をたたいた。でも、終わった後の何ともいえないすがすがしい気分。とても心地よかった。

私にこの感動を与えてくれたのは、舞台の真ん中におじいちゃんだ。山口太鼓を四十年守り続け、私に太鼓の楽しさを教えてくれた。

まだ私が小さかった時、おじいちゃんの家に行くと小さな太鼓があった。私はおもちゃのようにたたいて遊んでいた。そこに、おじいちゃんが来て「こうたたくんぞ」と教えてくれた。今まで一人で遊んでいた私は、おじいちゃんとたたいているうちに、すごく楽しくなってきたのを覚えている。それからは、太鼓をたたくのが楽しみで、長い休みになつておじいちゃんの家に行くのが待ち遠しくてたまらなかつた。太鼓をたたくのも楽しみだったし、おじいちゃんと一緒にたたくのも楽しみだった。

山口太鼓には、小学生から中学生が行う子供組がある。お祭りの舞台などで大人組に混じって子供組の出番もある。小さい頃からおじいちゃんやお父さんの太鼓を見に行っていた私は、子供組

に入つて一緒にやりたいとずっと思っていた。だから、四年生の時盛岡から宮古に引っ越してくるとすぐに子供組に入った。念願の子供組、うれしかった。

でも、練習は楽しいだけではなかった。大太鼓だと声出し、小太鼓はリズム、鐘は響きなどそれぞれ大事なポイントがある。その中でも私の苦手なのは声出し。お父さんにもおじいちゃんにもいつも「もっと声を出せ」と注意される。太鼓に集中すればするほど声が出なくなる。でも声を出さないと、仲間との息が合わなくなる。できない時は同じ曲を何回も練習する。大変だな、と思う時もある。

けれど、練習をさぼりたいと思ったことはない。それは大人やっている曲を早くやりたいから。山口太鼓は、私の誇りだから、早く近づきたい。

舞台の上で立っているおじいちゃんは、本当にかっこいい。ソロを演じている時はいつものおじいちゃんとは別人で、とても大きく見えるし、見ている人達にすごいパワーを与えているのが伝わってくる。おじいちゃんは「山口太鼓」でたくさんの人達とつながっている。

私はまだ間違えずにたたくのに必死で、舞台の上で太鼓を演奏しながらたたくことはできていない。でも、いつかおじいちゃんのように、舞台の上で楽しそうにたたいたり、舞ったりしたい。そして、おじいちゃんの太鼓を見て、私が太鼓をやりたい、と思つたように、私の太鼓で「山口太鼓」をやりたい、という仲間がたくさん増えてくれると嬉しいな。